

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 63

2018. 9. 30発行

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第63回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ 『「まちづくり」を歴史の教訓に学ぶ』

—二宮金次郎の村おこし、人づくり考—

～報徳仕法を中心に～

平成30年9月2日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ：『「まちづくり」を歴史の教訓に学ぶ』

—二宮金次郎の村おこし、人づくり考—～報徳仕法を中心に～で行いました。講師は、谷田 潔 氏（国際二宮尊徳思想学会会員）に発表していただきました。「まちづくり」は、地域をどのような地域にして行くか、地域を構成している人々が安心、安全、幸せな暮らしをしてゆくためにはどうすればよいのかという人間社会の根源的、本質的な問題として古くて新しい課題であります。今日の社会においても新たな「少子高齢化」という難問を踏まえた社会に向けて、「地域づくり」の抱える課題はあまりにも多い。いつの時代もそうであったように、先人達が乗り越えてきた創意工夫、知恵が時代を切りひらいてきたという、歴史に深く学ぶことが必要であると考えます。

今回は、二宮金次郎の思想に学ぶというテーマで「まちづくり」について考えます。フォーラム参加者は、16名でした。



講演する谷田 潔 氏



会場風景

—発表要旨—

□最初に、「二宮金次郎余話」として・・・

1787～1856 金次郎死去、今年で231年。死後、12年で、明治元年。金次郎40歳の時、西郷隆盛（1827～1877）が誕生。福沢諭吉（1835～1901）坂本竜馬（1835～1867）など近代日本成立に多大な影響を与えた人々と時代が重なるという点で同時代人として見ることができる。勝海舟（1823～1899）が「二宮尊徳には一度会ったことがある。正直な人だったよ。時勢が人をつくるという例を俺は確かに見たよ」と語っている。「時代が人をつくり、歴史が人をつくる」典型的な例であること。

□明治30年、二宮金次郎の孫である二宮尊親（たかちか）は北海道豊頃町を移住民と共に開拓「興福社」を創立したこと。この豊頃町では平成23年1月に「子ども報徳訓」が制定され「報徳のおしえ」の町となっていること。

その二宮尊親は、大正8年（1919）に報徳学園高校（西宮市）2代目校長に就任したこと。そして、校則三則が「以德報徳の道風を慕う」「至誠勤労の良風を尚ぶ」「分度推譲の美風を養う」であり、まさに報徳理念そのものを掲げていること。・・・など、二宮金次郎にかかわる興味深いこぼれ話から始まった。

□次いで、『報徳訓』を参加者みんなで朗読し、金次郎の報徳思想について考える場面も用意された。

朗読した一『報徳訓』一（左列6行、続いて右列6行の順に読む）

父母根元在天地令名	身命長養在衣食住三
身体根元在父母生育	衣食住三在田畠山林
子孫相続在夫婦丹精	田畑山林在人民勤耕
父母富貴在祖先勤功	今年衣食在昨年産業
吾身富貴在父母積善	来年衣食在今年艱難
子孫富貴在自己勤勞	年年歳歳不可亡報徳

※金次郎の報徳思想を108文字で表したものです。

□続いて、『二宮翁夜話』から「積小為大」（せきしょういだいを）を引き、「小さい事をゆるがせにする者には、決して大きな事はできないものである」という二宮金次郎の訓えを再認識する。

□いよいよ本題に入り「二宮金次郎のここが凄い！」では

金次郎の一周忌に息子弥太郎が村田半左エ門に宛てた書簡「専ら譲りの道を主といたし、諸人に先立ち、艱難を尽くし、生涯立身出世の道を断ち、衣食は肌。寒を免れ候迄に覚悟致し・・・」を挙げ、少年時に両親を失い3人兄弟の長男として二宮総本家再興のため艱難辛苦を尽くした原体験こそが、「天道は自然たり、人道は作事たり」を自得、自立・相互扶助の実践に全力投入した金次郎の生き方が、村づくり・人づくりの強い基盤になったことは間違いない。そして、日記50年分、書簡3610通、著作『三才報徳金毛録』が、金次郎の背骨をつくったという説明があり、改めて金次郎の偉大さを痛感した。

□金次郎の道歌「飯と汁 木綿着物ぞ身を助く その余はわれを せむるものなり」には、他者からの供応には一切応じず手弁当で農村復興に取り組む金次郎、役所勤務は単身赴任をせず家族とともに移住する金次郎の姿が重なり、疲弊した農村で苦しむ農民たちへの金次郎の深い思いが伝わってくる。

金次郎の生涯を通覧した時、「艱難辛苦積小為大」の幼少時代、「創意工夫勤勉貯蓄」の青年時代、「農村復興全力投入」の壮年時代、「報徳仕法六百余村」の晩年時代と考えてもよい。

□金次郎の生き方は、私たちの心を打つ。・・・

母親の実家に引き取られた弟（19歳）から、窮状を訴える手紙が金次郎に寄せられた。その時、金次郎は弟へ次のような返事を送った。・・・

「(お前の気持ちはよくわかると前置きし) 恩義を報い候也。生涯他念これあるまじく候」(どんな扱いを受けようとも、ここまで育ててくれた恩は決して忘れてはいけないと弟を諷めている)「どうしても金が必要ならば、資金として2分(10万円)貸すので、それで山林を買うように」と指示。そして、伐採した薪を売れば金が入ると助言。目前の窮状を救うのではなく弟の自立を願う金次郎は、先を見る、先を考える「遠慮の人」であった。「報徳精神と自立」の重要さを論ずる金次郎である。

□農民たちの不幸を数多く見てきた金次郎の説く興国安民は、「君ありて後に民あらず。民ありて後に君興る。蓮ありて後に沼あらず。沼ありて後に蓮生ずるものなり」というものであって、「藩主のために民がいるのではなく、民あってこそその藩主である」というのである。

金次郎の日記や書簡には『論語』からの引用も多く、その内容が為政者に対する民への善政を求めている。この考え方が、農村復興に一貫して通っている。

金次郎は、働けない老人や病人、女子や子どもに対し扶助金を与える一方、働けるのに貧乏な者たちには就労を考えた。就労時に渡す金は、必ず無利息返却を求めた。

□金次郎の進める農村再興は「報徳仕法」といわれ、「至誠」「勤勉」「分度」「推譲」という理念を基に行われた。

中でも、金次郎は「分度」ということを最も重視した。第一に、領主の生活実態を徹底的に調査し必要経費(家計費)を算出し、その範囲内で生活することを誓約させた。そこには「入るるを計って出を制す」が基本で、奢侈は許されなかった。この「分度」は、村民にも村全体にも適用された。収入と支出のバランスを最重要視した農村復興策である。

次に、金次郎は「推譲」ということを重視した。勤勉努力の結果、貯蓄された財は、家族・一族などのために使われ、その上で、村民・領内の者のために有効活用することであると訓え自ら率先垂範した。つまり、「推譲」とは、他者や地域社会への貢献、世のため人のために余財をを使うことである。

□農村復興を進める「報徳仕法」には、富田高慶、福住正兄、福山滝助、安居院庄七、岡田佐平治・良一父子など有能な弟子がいた。福住正兄は福沢諭吉とも親交があったし、岡田佐平治は「大日本報徳会」(掛川市)初代会長も務めた。現在、全国各地には報徳団体があり(資料:P8参照)、全国報徳研究会市町村協議会も結成され自治体の行財政改革を進め、

□本題：2「今なぜ二宮金次郎なのか？」では、・・・(資料：P5－6参照)

地方行政改革の一例として那須塩原市の場合をみた。2015年度当初予算概要説明の記者会見で市長は、「将来にわたり持続可能な財政運営を維持するため、二宮尊徳の「分度」と「推譲」の考え方に倣い、支出を収入の範囲内に抑え、余剰を将来のために貯蓄し再投資するとともに積極的に少子化対策や定住促進策等に基づく事業を展開したい」と述べた。

※そこで、徹底した歳出削減に取り組んだ。

- ・物件費（消耗品費や燃料費）の前年度比50%カット。
- ・経費ばらまきの政策の廃止。⇒高齢者支援タクシー料金補助事業を廃止しデマンド通を導入
- ・入札改革による歳出部分の見直し

※その結果、3つの「推譲」政策を実施することができた。

- ・全小中学校に外国語指導助手の常駐。
 - ・小学校5年生以上の全小中学生にタブレット端末機を配布。
- で参加、可。

※行政には、常に徹底したコスト削減と政策の見直しが求められ、その立案執行には「市民の意識改革」を同時に行うことが不可欠である。金次郎の言う「心田の開発」である。

※痛みを伴う行政改革を遂行するため、那須塩原市では、2012年度から市長給与の30%カット、幹部職員は平均して8%給与カットを断行。二宮金次郎の行財政改革に学ぶことは、決して無意味なことではない。地方行政関係者の議論がふかまれば幸いである。

(『地方行政』渡邊泰之・平成28年10月13日号)

□次いで、『日本経済新聞』（平成21年2月4日号：朝刊）が報ずる『200年企業～成長と持続の条件～「尊徳の遺伝子」で再興 浜松酒造、薄利貫き顧客増』で浜松酒造の場合をみた。「出世城」「昭華銀露」などの銘柄で知られる浜松酒造（浜松市）は、1730年代に操業した菜種油販売業を起源とする。「油屋」の屋号で東海道浜松宿に近い街道筋に店を構え繁盛。

その後、安居院庄七の提唱する報徳の精神を歴代当主は学んだ。明治4年、酒造業に転じ「中村屋」と改称。長い年月には、商売に陰りが出るものである。そんな時、「節約に努め薄利で商売に徹し利益至上主義とは一線を画した経営方針にはぶれはない」「決断する時、間違わずに済む何か報徳思想にはある」と現当主は言う。新規事業にも参入し現在は、努力の結果一層の進展をみせ、地域社会のためにも文化事業を中心に大きく貢献する企業となっている。ここにも、尊徳の遺伝子が健在であることを示す実例がある。

□二宮金次郎の精神を受け継いだ先人たちである渋沢栄一、安田善次郎、豊田佐吉、松下幸之助、御木本幸吉、土光敏夫の「道徳なき経済は罪悪であり、経済なき道徳は寝言である」との声が聞こえるようだ。と締めくくられた。

(記録：河地 清)

OPINION

「まちづくり」を歴史の教訓に学ぶ

谷田 潔氏の63回フォーラムテーマ『「まちづくり」を歴史の教訓に学ぶ』『一二宮金次郎の村おこし、人づくり考—報徳仕法を中心に—』を聴いて今日の「まちづくり」＝「地域活性化」の実践に大いに参考になる考え方、方法論を学ぶことができました。(『63回会報』発表要旨：参照)

歴史の先人に学びその歴史を今日にいかに使活かして役に立てて行くかを考えなければならぬと思いました。元経済官僚で、作家の堺屋太一氏は、『歴史は、過去の事件がどのようにして起こり、どのように展開し、どのように終わったかを語っている。そこには、人物の性格や組織の対応、世間の風評などの影響が、さまざまに表れる。それらは、いま、進行中の事件を取り扱うのにも、よき教訓となる。「賢者は歴史に学び、愚者は体験に従う」とは鉄血宰相といわれたドイツのビスマルクの言葉だ。人は成功体験に溺れやすく、危機経験に脅えつづける。歴史は成功が失敗の父であり、失敗が成功の母であることを教えてくれる。人は成功体験には警戒し、失敗の経験こそ活かすべきなのだ。』(『歴史の使い方』日経ビジネス人文庫P11：参照)と言っています。

二宮金次郎(尊徳)の人物評、報徳思想の歴史的思想史的評価について、日本近代思想史の泰斗鹿野政直氏は、『老農の代表ともいべき二宮尊徳の根本理念は、「推譲の道」であった(『二宮翁夜話』)。・・・生産の回復をはかるためには、農民の自主的な活動を期待しなければならなかった。そういった意味でかれの価値の基準はきわめて明瞭であった。「ひとは米食ひ虫なり、此米食虫の仲間にて、立てる道は、衣食住になるべき物を、増殖するを善とし、此三つの物を、損害するを悪と定む。」こうして尊徳は、生産活動への献身を善として説き、運命にしたがうのでなく運命をひらいてゆく態度を善としたのである。心学道歌の「三度たく飯さへこはしやわらかし、思ふまゝにはならぬ世の中」を批判して、「是勤る事も知らず働く事もせず、人の飯を貰ふて食ふ者などの詠るなるべし」とのべているのは、かれのそのような意識を示している。二宮尊徳一個人の自我の強烈さは奮闘的な生涯によって、運命をかえていたという意味でも、共同体への帰属意識からは異質な生きかたであった。そのような強烈な自我をもつ存在としてかたちづくってゆくこととする「天上天下唯我独尊」ということばを、かれは、「是れは釈氏のみならず、世界皆、我も人も、唯此、我こそ、天上にも、天下にも尊き者なれ、我に勝りて尊き物は、必無きぞと」云、教訓の言葉なり」と解釈している(同上)その自我意識を一般農民のあいだへも拡散してゆくこととする志向をよくあらわしていた。そのようにして村落共同体再建への努力は、かえって共同体に埋没しえない人間の創造への契機として機能しているのである。・・・自身隷農的人間類型を一步抜けだした生きかたを創造しつつあったといえよう。』(『資本主義形成期の秩序意識』筑摩書房1969年P68・69参照)と分析されている。「至誠」「勤勉」「分度」「推譲」を根本の理念とする二宮尊徳の地域づくりの手法は、今日の地域づくりにそっくり応用できるものである。(文責：河地 清)

計画中（時期未定）

65回

ふ
る
さ
と



春日井学研究フォーラム

Forum テーマ：『書のまち春日井と小野道風』

—小野道風について—

日 時：平成31年 月 日（日）午後1時30分～4時

場 所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）2階

TEL：0568-56-1943（〒486-0837 春日井市春見町3番地）

パネリスト：塚田 忠雄 氏（春日井郷土史研究会会員）

河地 清 氏（「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長）

未定（小野道風研究家）

※（非会員の方のみ資料代500円当日徴収させていただきます。）定員80名（定員で〆切ります）

※申し込み 事務局：〒486-0825 春日井市中央通り2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

後援：春日井市教育委員会

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/> ふるさと春日井学検索 

フォーラム案内は中日新聞「ウィークエンドガイド」（毎週金曜日）近郊版に掲載します